

剣道

No. 162

1. 2. 3. 4月号

三木市剣道連盟
広報部
2013(平成25)年
4月30日(火)
発行

- 第36回東播少年剣道大会・高校生春の合同合宿 (1面)
- 審判講習会・三樂錬成剣道大会 (2・3面)
- 第3回生涯剣道の集いに神澤正、森下氏が参加・小林哲、神澤文氏に教育功労賞 (3面)
- 稽古初め、月々の便り (4面)
- 本紙は三木市剣連HP <http://mikikenren2011.web.fc2.com/>でもご覧いただけます。PDFでカラー印刷可能。

中学生の部、吉川(前回優勝)の健闘及ばず レベル高かった東播少年剣道大会、各部門で好試合

平成24年度最後の大きな大会「第36回東播少年剣道大会」が平成25年3月31日(日)小野市総合体育館アルゴで行われ、三木市からは、小学生男子の部に、中央・別所・志染・自由が丘・緑が丘・吉川の6チーム、小学生女子の部に、中央・自由が丘・緑が丘の3チーム、中学生男子の部に、吉川・中央・志染の3チームがそれぞれ出場した。

小学生男子の部は、三木中央、自由が丘、別所、志染が1回戦を突破したが、2回戦では早、強豪に敗れ、唯一3回戦に進出した志染スポーツ少年団剣道部も、加古川市の「尾上剣友会」に敗退して、ここまでで姿を消した。ベスト4には前年度優勝の「高砂剣道教室

剣誠会」、「加古川警察少年剣道会」、「印南剣道場」それに地元の「小野市少年剣道教室柳心館A」が残ったが、いずれ劣らぬ稽古十分の実力者揃いで、互いに譲らず好試合を展開した。結局前年度優勝の高砂剣誠会を印南剣道場が僅差で降したが、このカードは昨年と同じであり、印南の大将阿部壮己が剣誠会の榊原彬人を破って昨年度の雪辱を果たし、優勝旗を奪還した。

小学生女子の部は、地元小野柳心館が初優勝。三木勢はいずれも上位に食い込むことはできなかった。

唯一三木勢の中で期待が持てたのは中学生男子の部だったが、前年度優勝の吉川剣道少年団は緒戦

例年武中敏彦先生(現三木高校剣道部顧問)の呼びかけで、春休

会員13名が元立ちに 高校生春の合同合宿に

大久保剣道教室(明石市)を沈め、2回戦もくいさがる尾上剣友会(加古川)を2-1で斥け3回戦に進出した。しかし、ここで勢いに乗る高砂剣誠会と当たり、競り負けて姿を消した。中学生は男女とも実力伯仲のチームが接戦し、熱戦をくり広げた。結局男子は大蔵剣友会が優勝、剣誠会が2位になったが、どこが優勝してもおかしくないレベルの高い戦いだった。

中学女子は、①一見北②剣誠会③阿弥陀剣友会④竜東会
小中学校とも全体に三木勢は今一つ力が及ばなかった。



元立ちに立った連盟会員の面々

みに、ホースランド、エオの森研修センター体育館で行われる、近隣の高校剣道部の合同合宿が、今年も3月26日(火)〜28日(木)まであった。参加したのは、社・三田翔雲館・柏原・小野工業・三木北・三木東・三木の7高校(生徒69名、引率指導者12名)である。初日の26日の夜は3部練。夜の稽古には地元三木剣連の剣士13名も元立ちに立った。指導の高校の先生たちに混じり、総勢25名の元立ちに、高校生約70名が次々にかかっていく。7時半から9時までみっちり稽古をした。最後に神澤正輝副会長が切り返しの大切さ、と要点を述べ、稽古を締めくくった。高校生たちは翌27日もホースランドで午前。午後の稽古。28日には三木東高校体育館で合宿参加校以外にも計20校が参加し、終日練習試合をした。

平成25年度三木市剣道連盟主催

審判講習会に67名が参加

「わかつて・できる」が目標

平成25年度の三木市剣道連盟の行事がいよいよ始まりました。

4月14日(日)、三木市加佐、コミュニティスポーツセンターに於いて「平成25年審判講習会」が、教士7段小椋治朗先生成人指導部長、錬士7段田畑修先生を講師に行われ、一般会員36名



マイクを手に指導する小椋先生

高校生31名が参加しました。小椋・田畑両先生は、全剣連の社会体育指導員上級コース合格者として日頃から研修につとめ、この日も資料を用意して、参加型の、

アクティブラーニングを行いました。

両先生は最初に全受講生に簡単なテスト用紙を配り、高段者から高校生まで全員に解答をさせた後我々の記憶や知識がいかに曖昧であるかを確認にして注意を促しました。今回の講習では「わかつてできる」(指導者の育成を目標に掲げ、組み合わせられた3名の審判(1名の高段者に2名の新人が、皆の注目する中、高校生たちの試合を審判し、それが終わると、前の組があとの1組を指導するといふものでした。注意する立場に立たせることで、より客観的に試合を見る目を養うやり方です。

実際、自分が審判するだけでなく、審判員を見守り、その不十分などころを指摘することによって同時に自らの未熟さの反省も同時に行うのです。

試合をする高校生も1組、審判練習をする講習生も1組だけですが、参加者全員が試合に集中し、認識を共有して「得るところ大」でありました。

やっている当人たちだけに終わらせない工夫が、「一緒に学びましょう」と呼びかける講師にはありました。

11時半に講習を終了し、そのあとは約1時間、参加者全員の合同稽古があり、4月から三木北高校教頭に着任された剣道教士8段高村克人先生も稽古に参加され、たっふりと汗を流しました。

三木高剣道部 三樂錬成剣道 大会で優勝(初)

3月26日(火)〜28日(木)までの2泊3日、ホースランドでの合宿を終え、稽古充実の三木市内の高校剣道部は、3月29日(金)、県立武道館(姫路) 創志

学園道場で行われた「第41回三樂錬成剣道大会」に参加した。この大会は、孟子の「君子に三樂有り。」の名言に由来して第11回大会から命名されたもので、以下の特色がある。

- ① 一チーム三人制であること。
- ② 五人一チームが組めない学校も出ることを念頭に、配慮していること。
- ③ 個人戦は段位制をとっていること。つまり、段外の部、初段の部、二段以上の部と分け、同じレベルの相手と競い合う。
- ④ 大会は年三回行われること。
- ⑤ したがって同じ学年のメンバーと年三回は戦い錬成する。違う学校の生徒がかなりなじみになり友情が深まる。

大会運営も、試合の審判も高校生自身の手で行い、出場者が相互に審判し合う。大会が四十一回を数えるのはその故である。

三木高校剣道部は、前回の40回大会で四チームが出場し、四チーム中三チームがベスト8に入るなど健闘して、かなりの自信を持って入賞にまでは至らなかった。今回は各チームとも3位以内を狙っていたという。今回も4チームが出場した。内Bチーム(先鋒宮崎三木中、中

堅妻福(志染中)大将松下(三木中)一が40校64チームの頂点に立ち、優勝した。

Bチームは緒戦から勢いがあり、準々決勝で相生産業Aに2-0、準決勝で八鹿Aを2-1、決勝戦で相生産業Cに2-1で勝って初優勝を果たした。相生産業は県大会の強豪の一画、それを斥けての勝利は、三木高の生徒にとっては大きな励みになる。

この大会は、県のトップクラスこそ参加していないが、県西宮、武庫之荘、淡路三原、舞子、神戸弘陵、須磨の浦、神戸科学技術等県下各地から集まってくる。40校64チームの頂点に立てたことは生徒の大きな自信につながるだろう。4月末には東播大会があるが、部員の意識も高まり、40年ぶりに入賞が狙える体制が整いつつあると武中監督はひそかに期待する。

三木高以外にも、女子個人初段の部で三木東高校の杉正が優勝、西尾が準優勝。女子段外の部で吉川高の藤原が準優勝した。

今回の大会から優勝チームには優勝カップが授与されたが、このカップは、今年限りで定年退職される松川好秋先生(元三木東高剣

道部監督、現県立大付属高校剣道部監督)から寄贈されたものである。その記念すべき優勝カップを三木高校が最初に持ち帰った。

第3回生涯剣道の集いに神澤、森下両氏が参加

4月2日(火)午前10時から午後4時まで、印南剣道場(加古川市西神吉町宮前)で行われた「第3回生涯剣道の集い」に、呼びかけに応じて、三木市剣道連盟から森下哲次・神澤正輝両副会長が参加し、総勢25名の剣友に混じって稽古し交剣の喜びを味わいました。この会は、参加資格を65歳以上の男子、50歳以上の女子とする以外、段位の制限などをせず、自由に稽古し、互いの健康を祝し、交友を深めるもので、木刀による日本剣道形の稽古と互角稽古を行いました。

参加した森下哲次氏の感想

「10名ほどの先生方と交剣の喜びを味わいました。帰宅して思い出すと、そんなに沢山の方々と稽古をしてよく体が動いたものだと思ながら感心し、健康でいられることに感謝しました。また、⁸⁶

歳になられる先生との立ち会いは、その理合いの奥深さに『剣道の不思議』を思い知らされました。」



左から参加した神澤、森下両副会長(右は蛭子先生)

小林哲也、神澤文和両氏に教育功労賞

2月23日(土)午後1時半より三木市教育センターに於て「平成24年度三木市スポーツ賞・教育功労賞授与式」が行われた。市内全域から平成24年度中に活躍が顕著であった個人28名、団体13団体が表彰されたが、その中には少年から75歳を超える方々も混じっていた。

表彰式には、「いきいき文化のまちづくりー心豊かな人づくりーのスローガンのもと、挨拶みき6カ条」^(あ)かるく、^(い)つでも、^(さ)わやかに、^(つ)づけて、^(み)んなで、^(き)もちよく」が掲げられていた。

スポーツ賞授与のあと、三木市教育功労賞の授与式に移り、各スポーツ種目から選ばれた20名の方々が表彰された。

我が三木市剣道連盟からは、小林哲也、神澤文和両先生が受賞された。長年にわたり、少年剣道の指導に携わり、併せて自身も生涯剣道の心を持ち続けられている両氏に対し、敬意を表してのことと思われる。

なお、当日挨拶に立った菟本市長の口から思いがけない発表があった。市長によると、平成25年度の予算でやっと赤字脱却のめどが立ちかけているそうで、懸案の「三木市総合体育館」の建設を27年度計画立案、29年度には完成させたいとのこと。噂にも上っていないかった突然の発表に、多くの方が驚いたのであった。

(報せ員 森下哲次)

平成25年の稽古 初め行われる

新年が明けた去る1月9日(日)朝9時より、三木市剣道連盟稽古初めが行われ、三木市民体育館に小・中・高校生及び一般会員計約120名が気分も新たに剣を交えた。

互いに新年のあいさつを交わした後、昨年11月の三木市民剣道大会で日本剣道形の部に入賞した3教室、別所、吉川、自由が丘の小学生各2名が5本目まで、その後昨年新6段に昇段された植田吉則氏と大柴敏昭氏による気迫のこもった素晴らしい日本剣道形が披露された。

その後、小・中学生、高校・一般会員の稽古と続き、心地よい汗を流した。



気迫十分の日本剣道形を披露した植田氏(左)、大柴氏(右)

月々のたより

丹野骨平

謹賀新年



鐘の終はりて 年新た
晴着畳みて 枕元

鐘の終はりて 年新た
孫の賀状も 交じり来る

鐘の終はりて 年新た
二日も同じ老夫婦

鐘の終はりて 年新た
へのへのもへじ 初硯

鐘の終はりて 年新た
屠蘇に酔ひたる 男の子

着更衣月諸事

福は炉端に 鬼は庭
座敷の隅に 豆残る

福は炉端に 鬼は庭
雪の維新の在りし月

福は炉端に 鬼は庭
軒につらりと 干し大根

福は炉端に 鬼は庭
九郎判官 一の谷

福は炉端に 鬼は庭
宇治の浮舟 いまいづこ



寒さの三月

蛍の光 窓の雪
今朝の草鞋は新しし

蛍の光 窓の雪
長屋の隅の 枝垂れ桃

蛍の光 窓の雪
証書でチャンバラ 小剣豪

蛍の光 窓の雪
袴姿も 今日限り

蛍の光 窓の雪
遥かなひ孫の 雛飾る



鳥待月興

花の下にて 酒酌まむ
遠慮は無用 まづ一献

花の下にて 酒酌まむ
酔ひて候 千鳥足

花の下にて 酒酌まむ
手拍子に合わせ フラメンコ

花の下にて 酒酌まむ
沈香に送られ 人去りぬ

花の下にて 酒酌まむ
鐘は遥かに 墓六つ

